

# 中間報告書

2016年6月1日～2016年11月30日

第36期

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は平成28年11月30日をもちまして、第36期第2四半期累計期間(平成28年6月1日から平成28年11月30日まで)が終了いたしましたので、ここに営業の概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年2月

代表取締役社長兼COO 長野 庄吾



## 営業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の伸び悩みや個人消費の低迷、更にアジア新興国等の景気の下振れに加え、英国のEU離脱問題などの影響もあり、先行きの不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループはリーディングカンパニーの最大条件を「ファンの多さ」と定義づけ「ファンつくり」を経営最大のテーマとして経営理念の実践を重ねております。

当第2四半期連結累計期間におきまして、メーカーバンダー事業では、引き続き自社開発商品(PB商品)の売上比率向上を図るため、当該商品の企画・営業・プロモーションの強化に注力いたしました。また、ECコマース及び海外マーケットへの販売を強化してまいりました。

SKINFOOD事業では、お客様の顧客化を図るため、店舗への反復来店促進策としてサンプル引換券を配布するなどの諸施策をきめ細かく実施してまいりました。出店及び退店につきましては、退店はなく、新たになんばマルイ店及び新さっぽろサンピアザ店(フランチャイズ)を開設いたしましたことから直営店20店舗(前年同期末19店舗)、FC(フランチャイズ)店2店舗(前年同期末1店舗)の22店舗(前年同期末20店舗)となりました。

ITソリューション事業では、引き続き通話録音システム「VOISTORE」、チャットシステム「Smart M Talk」、ビジネス版LINE「Works Mobile」の販売強化に当社グループ全体で取り組んでまいりました一方、経費の削減に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高7,071百万円(前年同四半期比5.0%増)、営業利益 211百万円(前年同四半期比326.7%増)、経常利益209百万円(前年同四半期比377.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益153百万円(前年同四半期は3百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

各セグメントの業績は次のとおりです。

<メーカーバンダー事業>

売上高は6,498百万円(前年同四半期比5.7%増)となり、営業利益は162百万円(前年同四半期比86.0%増)となりました。

<SKINFOOD事業>

売上高は463百万円(前年同四半期比1.0%増)となり、営業利益は48百万円(前年同四半期は9百万円の営業損失)となりました。

<ITソリューション事業>

売上高は109百万円(前年同四半期比13.4%減)となり、営業損失は2百万円(前年同四半期は28百万円の営業損失)となりました。

# 財産及び損益の推移

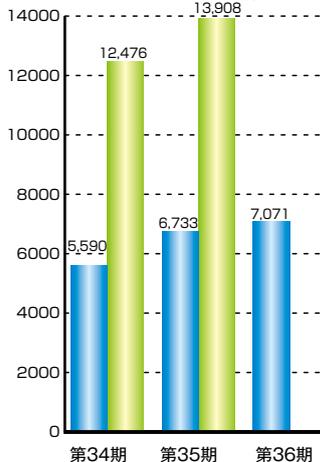
■ 第2四半期(累計) ■ 通期

## 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

(単位:百万円)

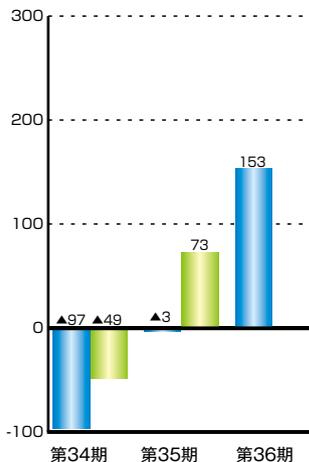
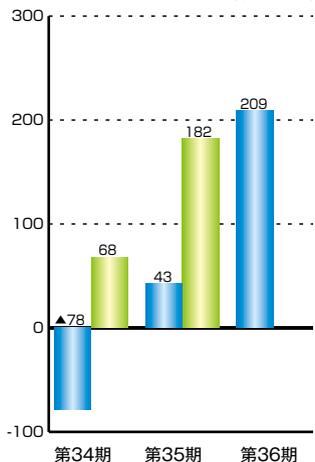
### 売上高

(単位:百万円)



### 経常利益

(単位:百万円)



# セグメント情報等

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

|                       | 報告セグメント    |            |             |           | 調整額(注1)  | 四半期連結損益計算書計上額(注2) |
|-----------------------|------------|------------|-------------|-----------|----------|-------------------|
|                       | メーカーベンダー事業 | SKINFOOD事業 | ITソリューション事業 | 計         |          |                   |
| <b>売上高</b>            |            |            |             |           |          |                   |
| 外部顧客への売上高             | 6,498,154  | 463,569    | 109,727     | 7,071,451 | —        | 7,071,451         |
| セグメント間の内部売上高又は振替高     | —          | 58,327     | —           | 58,327    | △ 58,327 | —                 |
| 計                     | 6,498,154  | 521,897    | 109,727     | 7,129,779 | △ 58,327 | 7,071,451         |
| <b>セグメント利益又は損失(△)</b> |            |            |             |           |          |                   |
|                       | 162,546    | 48,899     | △ 2,276     | 209,170   | 2,252    | 211,422           |

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額2,252千円は、連結消去に伴う調整額であります。  
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報 (固定資産に係る重要な減損損失)

「SKINFOOD事業」セグメントにおいて、店舗における営業活動から生じる損益が継続してマイナスであり、今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、帳簿価額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において739千円であります。

## 資産の部

流動資産：**4,419,246**千円

（前期末比：249,740千円増）

固定資産：**747,651**千円

（前期末比：71,241千円増）

## 負債・純資産の部

流動負債：**2,899,231**千円

（前期末比：213,295千円増）

固定負債：**642,691**千円

（前期末比：9,031千円減）

純資産：**1,624,975**千円

（全期末比：116,717千円増）

### ①資産、負債及び純資産の状況

#### （資産）

当第2四半期連結会計期間末の流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ249百万円増加しました。主な流動資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が132百万円、「商品及び製品」が123百万円、それぞれ増加し、「現金及び預金」が66百万円減少したことによります。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ71百万円増加しました。主な固定資産の変動は、「有形固定資産」が18百万円、「投資その他の資産」が54百万円、それぞれ増加したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の総資産は5,166百万円となり、前連結会計年度末に比べ320百万円増加しました。

#### （負債）

当第2四半期連結会計期間末の流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ213百万円増加しました。主な流動負債の変動は、「買掛金」が450百万円、「1年内返済予定の長期借入金」が58百万円、それぞれ増加し、「短期借入金」が340百万円減少したことによります。

当第2四半期連結会計期間末の固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ9百万円減少しました。主な固定負債の変動は、「長期借入金」が13百万円減少したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の負債は3,541百万円となり、前連結会計年度末に比べ204百万円増加しました。

#### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ116百万円増加しました。主な純資産の変動は、「利益剰余金」が115百万円増加したことによります。

## 四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

| 科目  | 前第2四半期累計期間<br>(自 平成27年6月1日<br>至 平成27年11月30日) | 当第2四半期累計期間<br>(自 平成28年6月1日<br>至 平成28年11月30日) |
|---|--|--|
| 売上高                                       | 6,733,347                                    | 7,071,451                                    |
| 売上総利益                                     | 2,712,061                                    | 2,871,897                                    |
| 営業利益                                      | 49,545                                       | 211,422                                      |
| 営業利益率                                     | 0.7%   | 3.0%   |
| 経常利益                                      | 43,899                                       | 209,441                                      |
| 経常利益率                                     | 0.7%   | 3.0%   |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益<br>又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △3,139                                       | 153,143                                      |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結包括利益計算書

（単位：千円）

| 科目                | 前第2四半期累計期間<br>(自 平成27年6月1日<br>至 平成27年11月30日) | 当第2四半期累計期間<br>(自 平成28年6月1日<br>至 平成28年11月30日) |
|-------------------|--|--|
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △3,139                                       | 153,143                                      |
| その他の包括利益          |  |  |
| その他有価証券評価差額金      | △962   | 836  |
| その他の包括利益合計        | △962   | 836  |
| 四半期包括利益           | △4,101                                       | 153,979                                      |
| (内訳)              |  |  |
| 親会社株主に係る四半期包括利益   | △4,101                                       | 153,979                                      |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

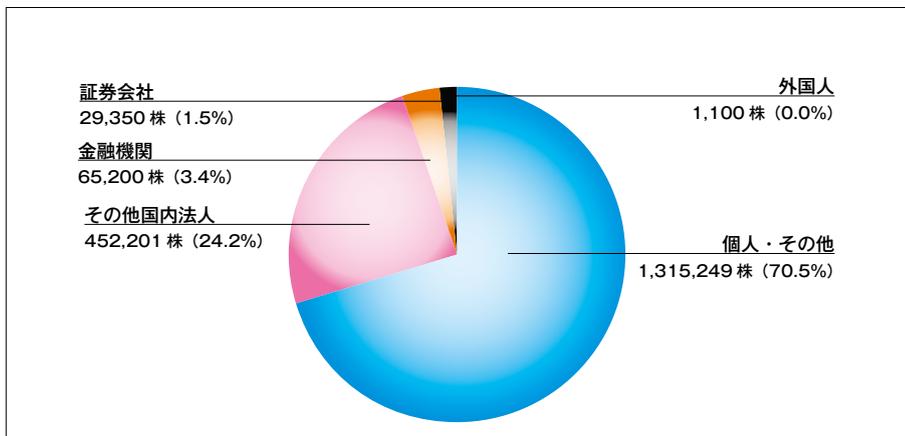


## 株式の状況 (平成 28 年 11 月 30 日現在)

### (1) 株式に関する事項

- ① 発行可能株式数 7,766,400 株
- ② 発行済み株式数 1,952,000 株 (自己株式 88,900 株を含む)
- ③ 株主数 4,667 名

### 所有者別状況



(注) 自己株式 (88,900 株) を控除しております。

### (2) 大株主に関する事項

| 株主名                | 当社への出資状況 |        |
|--------------------|----------|--------|
|                    | 持株数      | 議決権比率  |
| 株式会社AM             | 285,000  | 15.29% |
| 鬼頭 洋介              | 88,800   | 4.76%  |
| アイケイ取引先持株会         | 87,400   | 4.69%  |
| 伊藤忠食品株式会社          | 64,000   | 3.43%  |
| 飯田 裕               | 48,500   | 2.60%  |
| 株式会社協和             | 39,200   | 2.10%  |
| 濱田 雅巳              | 34,000   | 1.82%  |
| 株式会社りそな銀行          | 32,000   | 1.71%  |
| あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 | 32,000   | 1.71%  |
| 飯田 清子              | 31,000   | 1.66%  |

(注) 1. 議決権比率は自己株式 (88,900 株) を控除して計算しております。  
2. 持株数は持株名簿に基づいて記載しております。

### ■ メーカーベンダー事業

メーカーベンダー事業では、当社らしいメーカーベンダー業態を目指すため、自社開発商品(PB)の開発や専売商品の開拓に注力しています。「美容・健康」ジャンルを中心に商品企画を進めました。今後は得意先様を交えた商品企画を行うことで、よりお客様のニーズに合った商品開発をすすめ、経営理念でもある「ファンづくり」の実践を重ねてまいります。

#### ◆ 自社ブランド商品(PB)

##### ● ノンオイルカレー3セット

今期から新たに「全社重点商品」に位置づけました。販路におきましては新たにマツモトキヨシ様へ商品を導入するなど、全国1,000店舗以上での商品展開を致しました。

さらに、全国放送のプレゼントコーナーや雑誌、新聞に取り上げてもらうことで認知度の向上を図りました。

今後は、「ノンオイルカレー(甘口)」を開発するなど、より多くのお客様に選んでいただける商品開発に注力致します。



ノンオイルカレー3セット

##### ● オリジナル化粧品ブランド LB



LB 新イメージモデル ダレノガレ明美さん

新規販路として、スギ薬局様40店舗を追加するなど、取扱店舗数を約800店舗まで拡大致しました。

また、2月からツルハドラッグ様で50店舗の導入が確定し、更なる売上げの向上が期待されています。

さらに、9月に新発売致しました新色の「グレイッシュサングリア」の単品での売上げが記録ナンバーワンになるなど、商品開発でも好調を維持し続けています。

#### ◆ 今後の展望

商品戦略として：①「美容・健康」ジャンル商品開発に注力する。②商品開発は「商品・見せ方・売り方・販売促進」付きで行う。③「LB」の販売取扱店舗の拡大。

販路戦略として：①「B to B to C」ルートにおきましてはこれまで通り、得意先媒体への単品提案やページ提案に注力し、売り場拡大を目指します。②「B to C」ルートにおきましては自社ECサイトの立ち上げに加え、他社EC市場への出店を並行させてまいります。

海外戦略として：①PB化粧品「LB」のアジア定番定着。②越境ECの販路拡大。③新規メーカーの取扱商品点数UP。

## ■ SKINFOOD 事業

SKINFOOD事業では、新店舗として「なんばマルイ店」に加え、FC(フランチャイズ)「新さっぽろサンピアザ店」をオープン致しました。これにより、店舗数は22店舗となりました。  
(直営店舗数は20店舗)

### ◆ 新店舗



なんばマルイ店



新さっぽろサンピアザ店

### ◆ 今後の展望

来客数アップの取り組み:LINEなど、SNSによる反復来店施策の実施。  
店舗活性化の取り組み:店舗におけるハウスカードと新商品の予約販売。  
店舗外での販路拡大:量販店への卸売とオフィシャルオンラインサイトの訴求拡大。

## ■ ITソリューション事業

ITソリューション事業はコンタクトセンターのシステム構築での「VOISTORE」(音声通話録音システム)の販売を柱にしておりますが、前期から販売のチャットシステム「Smart M Talk」に加え、ビジネス版LINE「LINE WORKS」の販売を開始いたしました。

### ◆ LINE WORKS(Works Mobileの名称を改称)

「LINE WORKS」はビジネス用のLINEで、使用方法はLINEとほとんど変わらないことから、非常に使いやすく馴染みやすい商品となっています。

また、いつでもどこからアクセスしてもデータが安全に保管され、端末紛失時には遠隔でデータ削除ができるなど、セキュリティ面でも企業に必要なシステムが搭載されています。

今後急速に加速するであろうIT社会の大きな基盤の一つであると今注目を集めています。

### ◆ 今後の展望

製品面:①ビジネス版LINE「LINE WORKS」の販売強化。②「VOISTORE」のsmallパッケージをリリースし、小規模市場を新たに開拓。

営業面:「VOISTORE」の既存ユーザーへ「Smart M Talk」、「LINE WORKS」の提案。

|        |  |
|--------|--|
| 商号     | 株式会社アイケイ (I.K Co.,Ltd.)  |
| 資本金    | 401,749 千円   |
| 代表者    | 飯田 裕   |
| 設立     | 昭和 57 年 5 月  |
| 従業員数   | 113 名  |
| 連結従業員数 | 212 名  |
| 本社     | 〒 450-0002<br>名古屋市中村区名駅三丁目 26 番 8 号 KDX名古屋駅前ビル<br>TEL (052) 856-3101 (代表)<br>FAX (052) 856-3120<br>URL <a href="http://www.ai-kei.co.jp">http://www.ai-kei.co.jp</a> |
| 本社分室   | 〒 453-0809<br>名古屋市中村区上米野町四丁目 20 番地<br>TEL (052) 459-5131<br>FAX (052) 459-5160   |
| 東京支社   | 〒 104-0061<br>東京都中央区銀座一丁目 7 番 3 号 京橋三菱ビル 7 階<br>TEL (03) 5159-5355<br>FAX (03) 5159-5359   |
| (本店)   | 〒 453-0808<br>名古屋市中村区郷前町一丁目 5 番地   |
| 役員     | 代表取締役会長兼 CEO 飯田 裕<br>代表取締役社長兼 COO 長野 庄吾<br>常務取締役 高橋 伸宜<br>取締役 熊澤 敬二<br>取締役(常勤監査等委員) 近藤 さきえ<br>取締役(監査等委員) 高野 済<br>取締役(監査等委員) 櫻井 由美子                                   |

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで  
定時株主総会 毎年8月中に開催  
剰余金の配当の基準日 期末配当：5月31日 中間配当：11月30日  
証券コード 2722

上場金融商品取引所 東京証券取引所 JASDAQスタンダード

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
電話 0120-232-711 (通話料無料)

公告方法 当社の公告方法は、電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載して行うこととしております。  
<ホームページアドレス> <http://www.ai-kei.co.jp>  
<電子公告掲載ページアドレス> <http://www.ai-kei.co.jp/ir/koukoku>

## (ご注意)

- 1.株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いきませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記特別口座の口座管理人に、お問い合わせください。

特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社  
連絡先 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店

- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

